

障害者の就労と単身高齢者の問題

NPO 法人やまなしライフサポート理事長 中山八十司

やまなしライフサポートが県内4市からの委託を受けて実施している「一時生活支援事業」は、今年度から「居住支援事業」と改称されました。しかし、事業内容は前年度まで実施してきたシェルター事業：ライフ荘を利用しながらホームレスの方に就労支援や生活保護受給のお手伝いをする事です。前年度はこれまでにないほど多くの若いホームレスの方々の就労支援をしました。その活動を通して、彼らの就業期間の短さと離職の原因の多くが病にあることに気付かされました。

うつ病、統合失調症、適応障害などの精神疾患が原因で職を失い、貧困と闘っている若者が多いのです。適切な診断や治療を受けて障害者手帳を取得したり、障害年金を受給したり、就労継続支援事業の利用などの福祉サービスにつながる事ができていない多くの事例を見ました。

今年3月30日の朝日新聞で、「精神疾患のある人、入院ではなく地域ケアを」「ベルギーの精神医療改革」という記事を読みました。医師が病気を治さなければならないという考えではなく、患者に希望を与え本人の強みに焦点を当てながら共に支え合うことが重要だと指摘しています。この医療方法を活用して、精神疾患を抱え貧困と自信喪失に悩まされている若者たちを救済する道はないのだろうかと感じました。

厚労省の今回の制度改正のポイントとして、もう一つ「持ち家のない単身高齢者数の増加等への対応」があります。高齢一人暮らし世帯は20年で倍増しています。

やまなしライフサポートの主な活動として訪問相談支援があります。以前、橋の下や公園で野宿生活をしていたホームレスの方々に弁当配布をした経験を活かして、ライフ荘利用者のアフターケアとして、特に高齢独居者を定期的に訪問し

ています。また、最近利用者が急増している食料配布利用の常連で、一人暮らしをしている高齢者に対しても、相談員と看護師がペアで訪問相談支援をしております。

約2年間にわたって訪問相談支援を続けてきた、独居高齢者Aさん(80代 男性)への訪問支援記録をご紹介します。

Aさんの生活：年金は月に10.5万円。支出は家賃3.5万円、保証倒れになった債務返済として東京の債権回収機関に2.5万円、他機関に1万円。週5回利用している弁当代金1.1万円、医療費0.1~0.2万円。生活に使える残ったお金は水道光熱費を含めて3万円弱。食料不足を補うために、2023年7月よりライフサポートの食料配布に徒歩で参加しましたが途中で倒れて病院へ度々救急搬送されました。原因は低栄養でした。職員看護師や相談員で相談の結果、食料配布参加中止をお願いし、代わりに特例としてやまなしライフサポートがアパートに食料を配達することにしました。

この日から2025年4月までのAさんへの訪問相談支援の記録は以下のとおりです。

自宅を訪問して面談した回数57回、電話20回、自宅外での面談回数35回。他に合同支援会議、炊出し会場での相談、法テラスへの同行支援、弁護士事務所への同行支援、市役所への同行支援等々。

合同支援会議のメンバーは、地域の民生委員、地域包括支援センター、ケアマネージャー、法律事務所、医師、看護師と多方面に及びました。

その後、Aさんは体調不良で入院し認知症も進行したため、退院してもアパートでの自立生活が困難との判断に至りました。この5月に、ケアマネージャーの多大な尽力である高齢者施設に入所することが決定しました。皆様のご協力、連携の成果です。ありがとうございました。

2024年度の主な活動実績

2024年4月~2025年3月 人数は延べ数

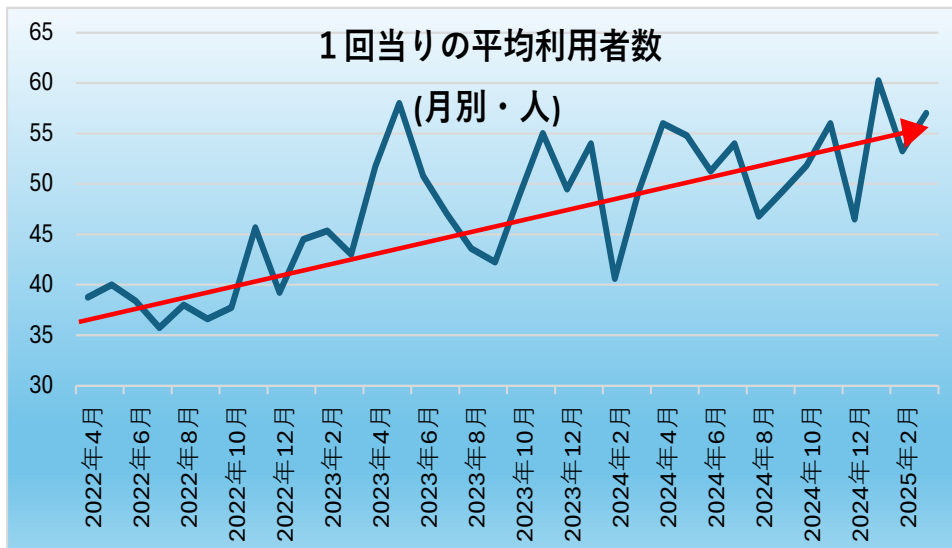
食料配布、炊出し	2,665名(50回)	緊急一時宿泊(ライフ荘)	413泊(42名)
健康相談	2,501名(152回)	生活保護申請同行	17名(受給実績9名)
生活保護・年金受給者面談	399名(233回)	就労相談	82名(就労実績17名)

特集 食料品が高い！

低所得者層を直撃

近年の電気、ガス料金と食料品の高騰、そしてとどめを刺すような昨年来のお米の値上げが低年金所得者や生活保護受給者の食生活を圧迫しています。

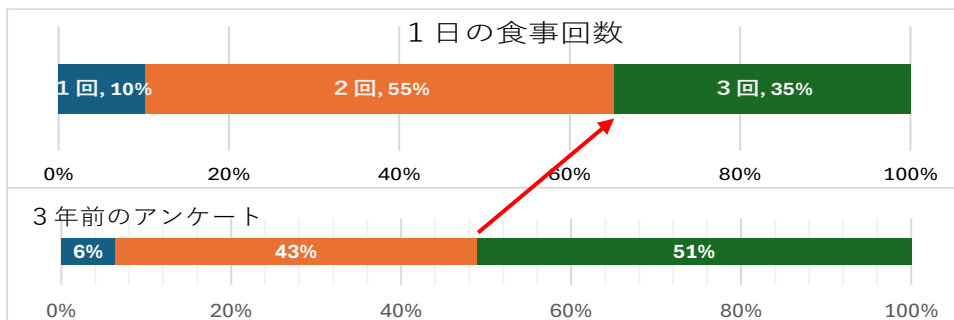
やまなしライフサポートは毎月第1木曜日に炊出しを、第2木曜日以降の木曜日は食料配布を行っています。炊出しではカレーライスや豚汁等を提供し、食料配布では精米3合、カップ麺、アルファ米、レトルト食品等2日分程度を配っています。その炊き出しや食料配布や炊出しの利用者は3年前と比較すると下図のように増加しており、食料品価格の高騰を反映していると言えるでしょう。



利用者アンケートを実施

食料配布利用者の増加の原因や背景を把握するために、食料配布利用者へのアンケート調査を行いました(2025年1月実施、回収数 69 件、無記名)。その結果以下のことがわかりました。

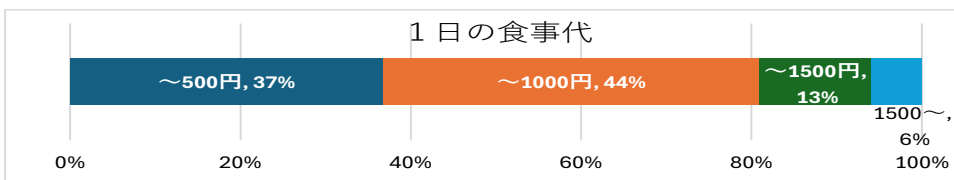
1日3回食べている方は1/3のみ



1日2食の方が一番多く、1食の方も1割いました。
3年前に行ったアンケートと比較すると、3食摂れている方が減少していることがわかります。

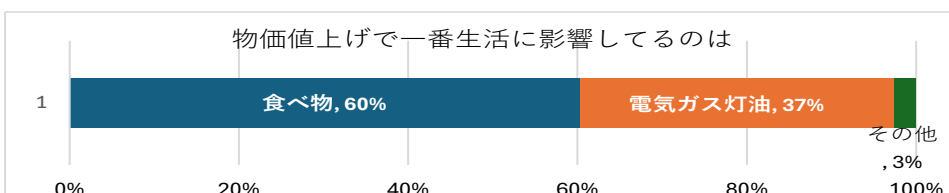
3年前のアンケート
2022年9月実施 回収数 47

1日の食事代500円未満の方が37%も



1日1000円以上の方は2割に達しませんでした。

電気・ガスよりも食品値上げの影響が大





炊出しのメニュー例



食料配布の例

食料配布の利用者さんに聞きました

Kさん(70代男性)

アパートのとなりの人から紹介されて1年くらい前から毎週利用しています。収入は、月額5万円程度の国民年金のみ。そこから家賃 25,000 円と電気・ガス・水道・電話代などを差し引くと 1 万円程度しか残りません。それを食事代に充てています。

外食はほとんどしていません。1日3食摂っていて、朝はトーストか前日のご飯をおじやにして、昼はインスタントラーメン、夜はご飯と納豆にインスタント味噌汁と野菜というパターンが多く、時々鶏むね肉を焼きます。むね肉は安いしたんぱく質が豊富なので。

野菜は、以前はキャベツやレタスをサラダで食べていたのですが、今は高くて手が出ないのでやしを買っています。お米もとても高くなっているの、毎週3合のお米配布が大変ありがたいです。

少しでも仕事をして生活費を増やしたいのですが、股関節が痛くて働けません。お金がなく病院にもかかれないので、市役所に生活保護の相談に行こうかと思っています。

Hさん(50代男性)

3年ほど前からほとんど毎回この食料配布を利用させていただきとても感謝しています。私は病気で仕事ができないので生活保護を受けていますが、生活はギリギリなので大変助かります。

特にここ1年くらいは食品の値段がどんどん上がっており、生活がますます厳しくなってきました。その中でも特に野菜と米の値上がりが大きく、なかなか買うことができません。今まで1日3食きちんと食べるように心がけてきましたが、最近は2食に抑える日があったり、ご飯を麺類などに代えたりしてしのいでいます。1食の分量も減らしてやりくりしている状態です。

食べることは生きる基本なので、ここまで食品の値段が上がってしまうと生きていくことが脅かされていると感じてしまいます。これからも食料配布は続けてほしいですし、本当にありがたいことだと思っています。できれば、お米をもう少し増やしてもらえると嬉しいです。

Kさん(70代女性)

食料配布を利用するようになったのは昨年の暮れからです。いろいろな相談にのってもらっている共立病院の相談員に教えてもらいました。自宅から配布会場まで往復 840 円のバス代がかかりますが、それでも物価が高いのでとても助かっていて毎週利用しています。ここに来て他の人のことを見ると、みんな頑張っているんだなと感じます。

生活の工夫としては、お米のとぎ汁で洗顔しています。そのせいか肌はつるつるできれいです。定期的に病院受診していますが、血圧が気になる時は食料配布会場で血圧を測ってもらっています。

今住んでいるところは家賃が高いので公営住宅に移りたいと思っています。空きがないのでしばらく待つことになりそうですが、長い目で見れば生活が楽になるので。

犬のしつけをした経験があるので、それを活かした仕事をして多少でも収入を増やせたらと思っています。

やまなしライフサポートの取組み

食料を提供するために、炊出しでは毎回10数名のボランティアさんに調理のご協力をいただいています。食料配布はフードバンク山梨、山梨県や甲府市の社会福祉協議会等の団体、農家や個人の皆さま等からの寄付で成り立っています。最近の利用者の増加に対応するために、各方面への寄付のお願いを拡大しています。

また、食べることに共に重要な生活の質の維持・改善のために、炊出しや食料配布の会場には生活・就労相談員と看護師が待機し相談に応じています。収入の少ない方には仕事探しや生活保護申請の相談を、健康面で心配のある方には健康相談や医療機関受診の助言をしています。

お米の寄付をお願いします

精米、玄米、モミ米を問わず寄付を受付けています。 量が多い場合は受取りに伺いますのでご連絡をお願いします。

見守りサービス始めました

やまなしライフサポートでは、住居を失ったり生活困窮で支援させていただいた方で、現在はアパート等で自立生活しておられる方を定期的に訪問しています。月1回程度訪問し、生活や健康面での確認をしています。

この従来からの訪問活動に加え、今年から食料配布利用者の見守りを行うことを決定しました。食料配布を毎週利用されている方が来なかった場合、まず電話をかけ、不通の場合は翌日に自宅訪問して安否確認をします。事前に申し込みをされた方が対象で、現在6名の方が申し込まれています。

独居高齢者の孤独死が社会問題となっています。やまなしライフサポートとの関りのある方でも地域や周囲の人々との交わりの少ない方が多く、1年に1～2名は孤独死のような状態で発見されるケースがあります。このような不幸を未然に防ぐためこの見守りサービスを拡充してまいりたいと思います。

見守り申込書									
NPO 法人やまなしライフサポート 御中									
上記の説明を精読し、見守りサービスを申し込みます。									
申込日 2025 年 月 日									
氏名				フリガナ					
生年月日	昭和	年	月	日	年齢	歳	性別	男	女
住所									
電話番号									
緊急連絡先	氏名				電話番号				
連絡先	関係	親族	友人・知人	アパートの大家	その他()				
生活保護	受けている			受けていない					

この記入内容は見守りの目的以外に使用することはありません。

ボランティアさん募集

炊出しのボランティアを募集しています。調理、配食、片付けをお願いしています。毎月第1木曜日、14時から17時。ご都合の良い一部時間帯でも結構です。

マスク、三角巾、エプロンをご用意いただき、13時50分にご集合をお願いします。

場所：甲府市中央2丁目7-10 カトリック甲府教会（駐車場あり）

物品のご寄付を募っています

家を失った方が新たにアパートでの生活を始めるにあたり、様々な生活用品が必要になります。多くのご寄付をいただいておりますが、現在右記の物品が特に必要です。ご連絡いただきましたら甲府市周辺であれば当方より受け取りに伺いますのでよろしくお願いします。

（家電製品は製造後10年以内の物をお願いします）

小型冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、
小型テレビ、電気炊飯器、コタツ、
電気ポット、自転車、カーテン、布団

寄付金も募っています

貴い寄付金が食料や衣類となって困窮されている人を支えます。

お振込みの前に、電話かメールでその旨お伝えいただけると幸いです。

振込先

山梨中央銀行 南支店 普通預金 865629

名義人 特定非営利活動法人やまなしライフサポート 理事 中山八十司
(トクヒ.ヤマナシライフサポート)

会員募集中です

やまなしライフサポートの活動を資金面で支えてくださる方を募集しています。

正会員（当団体を支援し活動に参加してくださる方。総会での議決権あり）	年会費 個人 5,000 円 団体 10,000 円
賛助会員（当団体の活動を応援してくださる方）	年会費 個人 3,000 円 団体 5,000 円

入会申込書は、やまなしライフサポートのホームページ(<http://yls.or.jp/>)からダウンロードすることができます。